

第3学年2組 総合的な学習の時間学習指導案

授業日 平成28年7月13日(水) 4校時
授業者 附属新潟小学校 教諭 志田 倫明
会場 3年2組教室

1 単元名 100年後まで守りたい ～わたしたちの笹団子～

2 本単元の価値

本単元では、新潟の郷土菓子である笹団子を学習対象として単元を展開する。笹団子を学習対象にする価値は次の通りである。

- 総合的な学習の時間として、探究させる価値のある素材であること。
県内外からお土産品として人気がある。農林水産省が認める新潟県の郷土食にも選ばれ、インターネットや情報誌などにも広く紹介されている。多くの人々が認める新潟県下越地方固有の郷土菓子であり、その発生の由来や材料は地域に根ざしたものである。また、昔から行事食として家庭で作られ、大切に受け継がれてきた地域文化である。対象を深く知ることは、地域を知ることにつながる。しかしながら子どもたちの笹団子についての知識は、味やその形状にとどまっており、一般的な菓子と変わらない認識をもっている。また、現在の地域住民は、笹団子作りに取り組むことはほとんど無くなり、新潟を代表するお土産品とらえている人が多い現状がある。
笹団子を学習対象として、探究活動を構想することで、地域を知り、またその地域文化を大切にするための取組を考えていくことができる価値のある学習対象である。
- 学校周辺の身近にある地域素材であり、社会科「わたしたちの大好きなまち」と横断的な学習が構想できること。
3年生は社会科で学校周辺の地域、また新潟市内について学習する。子どもたちは、実際に地域に出かけ、見学やインタビューをして調査活動に取り組む。その地域に笹団子を販売する田中屋(本店：古町 体験施設：みなとびあ)がある。田中屋は笹団子を地域に残そうと信念をもって、伝統的な製法、味、地場産の材料にこだわった笹団子を提供している。さらには体験施設を作り、笹団子に関する情報を積極的に発信することで、家庭・地域での笹団子作り普及に尽力している。
また、笹団子の材料となっている、笹の葉やすげの自生場所は、市内の山間部や川沿いにあり、社会科で新潟市の土地の特徴を調べたり理解したりすることにつながる。
社会科のこうした周辺地域の専門家と出会い、繰り返し関わりながら調査活動を行うことは、社会科の資質・能力を発揮させることができる。

以上ことから、子どもは学習対象である笹団子に自ら働き掛けていくことで、社会科で培う資質・能力を十分に発揮しながら笹団子に対する見方を変容させ深めていくことができると考える。その上で、自分なりに取り組むべきことを考え、実行することができる価値ある学習対象であると考え。また、本単元で子どもが設定する課題は、発信型の課題を構想する。子どもにとって未知の内容を追究しながら調べ、深く知る(インプット)課題よりも、共通体験で得た知識を他者に発信(アウトプット)することで自覚化させる課題の方が、総合学習入門期の子どもにとって設定しやすく取り組みやすいと考えたからである。
本単元では1次で、十分な共通体験を行い、笹団子の作り方、材料、歴史、地域文化などについて、知識を獲得させるとともに笹団子に対する愛着をもたせる。その次に、子どもたちが知り得た知識を多くの人々が知らないという事実に出会わせる。教師が用意した情報をただ提示するのではなく、子どもにも調査活動と集計を行わせ、情報の数値化、表やグラフへの置き換えなど算数科の資質・能力を発揮させる。こうすることで、子どもは調査対象の現状を明確に把握することができる。働き掛ける発信対象を明確にし、さらには発信する内容や方法まで含んだ、具体的な課題を想定することができる。こうして、自分で取り組むべき課題を決め、価値ある探究を自ら生み出すことができる。

3 本単元で目指す姿

調査活動の結果をもとに発信対象を見だし、取り組むべき課題を明確にする子どもの姿を目指す。具体的には、「笹団子の魅力をもっとたくさんの人に知ってもらいたい。(発信対象)に、△△△△(方法)で伝えよう」などと、調査活動の結果を根拠として発信対象を見だし、自ら働き掛けていこうとする姿である。

4 本単元で育む資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全26時間(78Q)

単元カード参照

6 指導の構想

前時までに、子どもは笹団子の特徴を調べたり笹団子を作る体験をしたりして、笹団子が地域固有の郷土食であることとその理由について学習してきた。また、昔の笹団子作りの様子を聞くことで、笹団子に対する地域の人たちの思いを知り、笹団子に対する愛着をもっている状態(C0)である。このような子どもにも、次のような働き掛けを行う。

働き掛け1

子どもたちの周りの人は、どのくらい笹団子のことを知っているのかを問う。

目的と調査対象を明確にして調査活動を行わせるための働き掛けである。

「みんなが学習して分かった笹団子の詳しいことを、周りの人はどのくらい知っているのだろう」と問い、予想を出させる。「どのくらい」という曖昧な言葉を用いるのは、「人の数」と「笹団子にかかわる内容」の両方を含ませることで、2つの調査の視点を引き出すためである。子どもは、「周りの人」として、家族や附属新潟小学校の子ども、また社会科の町探検で出会った地域の人たちなどを挙げ、知っている人の多さを話題にする。そして、共通体験から得た知識や経験から「作り方は知らないかもしれない。体験したとき、最近は笹団子作りをしていないと言っていた」「お父さんは〇〇について知っていた」と笹団子にかかわる内容を話題にする。その子どもたちに「本当に知っているのかな（知らないのかな）」と問い返す。子どもは予想を出し合うだけではいつまでも明確にならないことに気付く。

そのような子どもに「どうしたらみんなの予想をはっきりさせることができるかな」と問う。子どもは、直接インタビューしたりアンケートをとったりして調べてくることを考える。その後みんなで調査してきたい内容を出させ、共通の調査内容を決めさせる。子どもは家族や親戚、附属新潟小学校の子ども、町探検で出会った地域の人たちに調査対象を定め、班ごとに調査活動を行う。

働き掛け2

調査活動の結果を表にまとめて提示し、よかったことと残念に思うことを問う。

笹団子のことを知らない人の多いことに問題意識をもたせ、自分たちが知っていることを伝えていこうという共通課題を設定させるための働き掛けである。

調査活動の結果を1つの表にまとめたものを提示する。そして、「結果を見てよかったと思うことはありますか」と問う。子どもは、表の肯定的な傾向の結果に着目し、「笹団子が好きな人が多いところはよかった。だって新潟の名物だから、みんなが好きな方がいい」などと答える。

次に、「結果を見て残念だなと思うことはありますか」と問う。子どもは否定的な傾向の結果に着目し、「作ったことがない人が多いのは残念だと思う。だって、このまま作られないと、作り方が受け継がれず、この先どんどん作られなくなる」や「いつ作られるか知らない人が多いのは残念だ。だって、作るのには意味があるのに、それを知らないとただのお菓子と変わらなくなっちゃうから」などと答える。これまでの共通体験で得た既有から問題意識を高めた子どもに、これからの虹の輪の時間でやりたいことを問う。子どもは知らない人が多いことをこのままにしておきたくないという問題意識から、自分たちの知っていることを伝えていきたいという共通の課題を設定する。

働き掛け3

だれにどのような内容をどのような方法で伝えたいのかを問う。

調査活動の結果を根拠にして、取り組むべき課題（発信対象、発信内容、発信方法）を明確に設定させるための働き掛けである。

共通課題を設定した子どもに「あなたはどこで『だれ』に笹団子のことを伝えたいのか」と問う。子どもは教師から提示された表の数値をもとに、「知らない人が多いから、調査活動をしたところで通る人に伝えればいい」と答える。一方で、「お年寄りや若い人で作ったことのある経験は違った。若い人に伝えたい方がいい」と発信対象をより具体的に考える子どもも出てくる。そこで、本当にお年寄りや若い人では違うのか、どうしたら確かめられるかを問い返す。子どもは調査活動の結果を対象ごとに分けて集計し直すことを考える。そこで、グループごとに表にまとめ、集計し直す。1つの表を複数に分けたり、複数の表を1つにまとめたりすることで、算数の「表とグラフ」の二次元表の内容をここで学習することができる。

対象ごとに表を分けて集計することで、お年寄りや若い人で結果に違いが出ることが分かる。そこで、「あなたは『だれ』に『どんな笹団子の内容』を伝えたいですか」と問う。子どもは、より具体的に became 表の結果をもとに、発信対象と内容が明確になる。

発信対象と内容を明確にした子どもは「どうしたら笹団子の魅力を発信対象に伝えることができるか」という方法を考え始める。そこで、発信対象ごとの小グループで話し合う場を設定する。子どもは共通の発信対象にどのような笹団子の魅力をどのような方法で伝えるのかを明らかにし、課題を設定する。具体的には「(発信対象)に、〇〇〇〇(内容)を△△△△(方法)で伝えよう」と、追究すべき具体的な課題を設定する。

課題を設定した後は、準備をし、実際に伝えにいく活動の場を設定する。

働き掛け4

専門家から、子どもたちの活動を価値付け、専門家の取組について話を聞かせる。

学習対象への見方を付加させるための働き掛けである。

田中屋さんから、子どもたちが行っている笹団子の魅力を発信する取組についての価値を話してもらおう。具体的には、「笹団子は昔から受け継がれ、守られてきた、新潟の地域固有の食べ物でありながら、そのことを知らない人が多くなってきている」という問題点と、そのことを解決するための取組になっていることを褒めていただく。子どもは、自分たちがやってきたことに価値を感じ、もっとやりたいという気持ちを高める。

次に、専門家の取組について話をしてもらおう。具体的には「体験施設を作って毎日のように笹団子作りを教えていること」「インターネットのホームページで情報を発信していること」「店舗には作業工程が見えるようにして、笹団子の作り方を広めていること」など、行っていることとその趣旨を説明してもらおう。子どもたちは、田中さんの取組に共感するとともに憧れをもつ。そして、田中さんのお手本のようにもっと多くの人に様々な方法で笹団子の魅力を発信したいと思うようになる。

働き掛け5

どのような場でどのような活動をするとうい、考えさせる。

新たな発信対象を見いださせるための働き掛けである。

田中屋の話聞いた子どもたちに、「どのような場でどのような活動をしたか」と問い、考えさせる。子どもたちは、人の多いところに行って対象を見いだそうとする。そして、社会科の町探検や市の様子を調べた既習をもち出し、古町や新潟駅前のように人が多く集まるところを効果的な場所としてあげる。発信対象を思い浮かべた子どもたちは、自分が思い浮かべた人たちがどこに住んでいる人なのか、笹団子についてどの程度知識があるのか、などについて知りたくなり、インタビューやアンケートで調べてくることを考える。子どもたちにインタビューや質問紙を確認させる。

働き掛け6

発信対象に対してどのような方法で伝えればよいか問う。

新たな発信対象に合う発信方法を考えさせ、課題を更新させるための働き掛けである。

調査活動を行わせ、そのデータを集めさせる。集めてきた情報が大量にあることから、子どもは算数の学習を想起し、**複数の情報を整理し見やすくするために、表やグラフに整理して集計する(☆資質・能力 算②)**ことを考える。

その後、どのような場で活動するとよいか考えさせる。子どもは、以前に発信した経験や反省、田中屋の行っている発信方法を基に、新たな発信対象に合った方法を考える。そして、「(発信対象)に、○○○○(内容)を△△△△(方法)で伝えよう」と、追究すべき具体的な課題を更新する。これが、**調査活動の結果をもとに発信対象を見だし、取り組むべき課題を明確にする子ども**の姿である。

6 本時の構想 (本時15/28時間)

(1) ねらい

調査活動の結果を分類したりまとめ直したりする活動を通して、笹団子について知らないことと知らない人の存在に気づき、これからやりたいこと(発信対象や発信内容)を決めることができる。

(2) 主張(展開) 3Q(45分)

このような子どもに(C0)

- 笹団子の作り方、特徴、歴史について知識を得ている。
- 笹団子の地域固有性や笹団子に対する思いを知り、愛着をもっている。
- 学校周辺地域を探索し、町の方角ごとの特徴や、人の様子について理解している(社①)。
- 笹団子の材料である笹の葉が新潟市の山間部でとれることを知り、新潟市の地形の特徴とつなげて理解している(社①)。
- 複数のデータを表やグラフに整理することができる(算①②)。

このように働き掛けると【働き掛け1】

子どもたちの周りの人は、どのくらい笹団子のことを知っているのかを問う。

- 発問 「みんなが学習して分かった笹団子に関することや魅力を、周りの人たちはどのくらい知っているのだろうか」
 - ※ 補助発問 「なぜ、その人たちは知っていると思うか」
- 発問 「はっきりさせる方法はないかな」
 - ※ 補助発問 「どうして、その方法がいいと思ったの」
- 指示 「準備して調査に出かけてきましょう」
 - ※ 補助発問 「調査ではどんなことを聞いてきますか」
 - 子どもたちが確かめたい内容を出させ、アンケート項目を作成させる。
 - ※ 各班で調査したい対象(場所)を決めさせ、調査活動に出かけさせる。
- 指示 「調査活動の振り返りを書きましょう」

このようになり(C1)

- 周囲の人が笹団子について知っていることと知らないことを予想する。
 - ・ お年寄りは、作り方は知っているはず。昔はおやつがなく作っていたはずだから。だけど、若い人は、知らないことの方が多いと思う。だって、笹団子は買って食べるだけだもん。
 - ・ 古町の人たちはほとんど知っているよ。だって田中屋さんがあるんだから。
 - ・ 小学校のみんなはどうかな。5・6年生は、前に笹団子作りの体験をしたって言ってたから、僕たちみたいに詳しいんじゃないかな。
- 周りの人の状況を明らかにする方法を検討する。
 - ・ 人の多いところに行って、アンケートに答えてもらおう。
 - ・ 町探検のときみたいに直接インタビューして聞いてきてもいいね。
 - ・ 学校の人に質問してこよう。
- 準備し、調査活動を実行する。
 - ・ いろんな年齢の人に話を聞いてみよう。
 - ・ 笹団子を家で作ったことがあるか、聞きたい。
 - ・ 笹団子がなぜ新潟で作られるようになったのかは聞いてこよう。
- 調査活動の振り返りをカードに書く。

このように働き掛けると【働き掛け2-①】

調査活動の結果をまとめ、これからやりたいことを問う。

- 説明 「調査活動前、みなさんはこのように予想していましたね」
 - ※ 子どもの予想(以下に示す)をまとめた紙を黒板に提示し、確認する。
 - ・ ほとんどの人がアンケートの内容を知らない。

- ・お年寄りほとんど知っている。若い人は知らない。
 - ・附属小の高学年は知っていることが多い。低学年は知らないことが多い。
 - ・笹団子の種類は知っていると思うけど、どんなときに作っていたかは知らないはず。
- 発問 「調査活動に出かけて、何が分かりましたか」
- ※ 異なる場所で調査してきた子どもたちを意図的に指名する。
- ※ 予想の正否にズレがある部分を取り上げ、板書する。

このようになり (G2-①)

- 予想と調査活動の結果を比べて、その正否を考え始める。
- ・ 調査活動に行く前の予想と、実際は違ったな。
- ・ 予想と違って、みんな以外と知らないんだな。
- 調査結果に他グループとの異同があることが分かり、はっきりさせたいという問いをもつ。
- ・ 周りの人は、笹団子について知らないことが多いところと同じだな。
- ・ 私のグループはお年寄りは詳しく知っていたけど、他のグループのお年寄りはそんなに知らなかったみたいだ。
- ・ はっきりさせたいから調査活動の調査してきたカードがもう一度見たいな。

本時ここから

このように働きかけると【働き掛け2-②】

調査結果を表にまとめて提示し、やりたいことを問う。

- 発問 「アンケート結果を表にまとめました。表を見て、よかったことと残念だと思うことは何ですか」
- ※ アンケート結果はすべての班を一つにまとめたものを提示する。
- ※ 補助発問「どうしてそのことが問題だと思うのですか」
- ※ 子どもが問題意識をもっている項目とその理由を板書にまとめる。
- 発問 「この項目については分からない人が多いのが残念だという人が多いようですね。虹の輪でこれからどんなことをしていきたいですか」
- ※ やりたいことをカードに書かせる。
- ※ 分からない人に教えてあげたいという意識の子どもの思いを指名し、共有させる。
- 確認 「みんながこれからやりたいことは、『知らない人に笹団子のことを伝える』ということですね」
- ※ 学級の共通課題として「笹団子のことを知らない人に伝えよう」と板書する。同じ内容であれば、子どもの言葉に置き換えて板書する。

このようになり (G2-②)

- 問題点とその理由を明らかにする。
- ・ 笹団子が好きだという人は多い。これはよかったなあ。
- ・ 笹団子を作ったことがない人が半分以上いる。これでは、笹団子をますます知らなくなってしまう。
- ・ 昔からどんなときに食べられているか知らない人が多いのは問題だと思う。笹団子を作るのは、子どもの日とか、農業のお祭りのためとか意味があるのに、みんな意味が分からず、ただのお菓子として食べるだけになってしまう。
- これからやりたいことを考える。
- ・ 笹団子のことを知らない人には、ちゃんとしたことを伝えたいな。
- ・ 笹団子の作り方や材料のことを、教えてあげたい。
- ・ 笹団子がどんな日に作られるかとその理由を教えてあげたい。
- これから学級でやることを確認する。
- ・ 笹団子のことを知らない人に、みんなで笹団子のことを伝えに行くんだな。
- ・ 早く行きたいな。

このように働きかけると【働き掛け3-①】

活動する場所と発信対象を問う。

- 発問 「みんなで決めたことを虹の輪で進めて行こうと思います。ところで、みんなは、どこでだれに伝えたいですか」
- ※ カードに書かせる。
- ※ 発信対象を漠然と考えている子どもから指名し、
- ※ 補助発問「どうして若い人に伝えた方がいいと思うの」
- ※ 補助発問「どの項目がお年寄りや若い人で違いがあると思うの」
- 発問 「本当に知らない人が多いのか、どうやったら確かめられるかな。」
- ※ アンケート結果を、若い人とお年寄りの人で分けて確かめる方法が出たら、手順を問い返し、まとめる手順を確認する。
- ① アンケート用紙を調査対象ごとに分ける。
 - ② 各班（4人）を調査対象ごとに分担して集計させる。
 - ③ 集計したデータを黒板でまとめ、教師といっしょに集計する。

このようになり (G3-①)

- 効果的な発信対象を考える

- ・アンケート調査をした場所と同じ場所にいて、そこを通る人に伝えたいな。
- ・いや、お年寄りには作った経験が多かったよ。若い人が作ったことが少ないから、若い人に伝えたい方がいいよ。
- ・附属新潟小学校の人たちがほとんど知らなかった。
- ・②の作ったことがあるという質問は、特に違いがあったと思うよ。
- 項目を決めて発信対象ごとに分析し直す。
 - ・本当にそんなに違いがあるのかな。
 - ・お年寄りとお年寄りのアンケートに分けて、教え直せばいいんじゃない。
 - ・みんなで集計し直してみると、若い人とお年寄りでも随分結果が違うなあ。
 - ・だったら、作り方はお年寄りじゃなくて若い人に伝えたい方がいいよ。

このように働きかけると【働き掛け3-②】

これから自分がやりたいことを考える

- 発問 「これから虹の輪の時間でどんなことをしていきたいですか」
- 指示 「自分がこれからの虹の輪でやりたいこととその理由をカードに書きましょう」
 - ※ 数人を指名し、カードに書く見通しをもたせる。
 - ※ 補助発問「どうして、〇〇がしたいのですか」
 - ※ 個人でカードに書かせた後、学級で出し合い、学級で取り組む方向を決める。

このようになり (C3-②)

- 発信対象と内容を考える。
 - ・私は、町の若い人たちに笹団子が新潟でつくられるようになった理由を教えてください。だって、ほとんどの人がそのことを知らなかったからです。新潟にいるなら知っていてほしいので、教えてください。(総合③)
 - ・ぼくは、古町で若い人に作り方を教えてください。作った経験がない人が多いから、作り方を教えて、これから作る人を増やしたいからです。(総合③)
 - ・ぼくは、小学校のみんなに、笹団子の作り方を教えてください。ほとんどの人が笹団子作りをしたことがないからです。笹団子作りの楽しさや自分で作るおいしさを伝えて、これからも引き継いでいってほしいです。(総合③)

..... 本時ここまで

このように働きかける【働き掛け3-③】

思いを実現させる方法を問う。

- 発問 「みんながしたいことは、どうやったら実現できますか」
- ※ 補助発問「どうして、〇〇がしたいのですか」
- 指示 「〇〇さん(発信対象)に△△(内容)のことを□□(方法)で伝えてきましょう」

このようになり (C3-③)

- 効果的な方法を考える。
 - ・私は、町のみんなに笹団子が新潟で作られるようになった理由を教えるために、小さな「笹団子新聞」を作りたいです。そこで、新潟には笹やよもぎ、すげなど材料になるものがあったこと、笹でまくことで長持ちしたこと、そして、新潟はお米がたくさんあったことなど、新潟で作られたことを知らせたいです。
 - ・ぼくは、学校みんなに、笹団子の作り方を教えてください。学校みんなは、笹団子の作り方を知らない人が多いからです。そのために、笹団子の作り方を iPad で写真を並べて、説明したいです。写真を見ながらだと分かりやすいと思うからです。
 - ・笹団子の材料について、もっとお家の人に知ってほしいです。実際に材料の写真や本物を見せながら、どこでとれるのか、いつが旬なのか説明したいです。
- 考えた方法で実行する。

このように働きかけると【働き掛け4】

専門家から、子どもたちの活動を価値付けてもらい、専門家の取組について話を聞かせる。

- 説明 「田中屋さんが、是非皆さんにお話ししたいことがあるということで、学校にいらっしやいました」
 - ※ 田中屋さんに次のことを話してもらおう。
 - ・子どもたちの取組について
 - 子どもたちが笹団子のことを広める活動をしていることについての共感と賞賛
 - ・現在の取組
 - 地場産材料の使用。伝統的な製造過程を守る。体験施設を作る。インターネットでの情報発信。店頭で製造過程を見せること。
 - ・子どもたちへ
 - これからも、どんどん笹団子のことを広めていってほしい。
 - そして笹団子をずっと大事にしていってほしい。
 - 発問 「田中屋さんの願いやしていることを聞いて、どんなことを感じましたか」
 - 発問 「これから虹の輪の時間でどんなことをしていきたいですか」
 - 指示 「自分がやってみたいことをカードに書き、その後紹介し合ひましょう」

このようになる (C4)

- 田中屋さんの話を聞いて感じたことをグループで出し合う。
 - ・私たちがやっていることって、とても大事なことなんだ。もっとやっていきたい。(総合④社会④)
- 田中屋さんの一生懸命な取組を聞いて、ますます笹団子を大事にしたいと思った。(総合①) この先の学習でしてみたいこと書き、学級で紹介し合う。
 - ・田中屋さんみたいに、もっと多くの人(県内・県外)に笹団子のことを知ってもらえるような活動がしたい。(総合④)
 - ・田中屋さんみたいに、すてきなパンフレットを作って、配ったらどう。

このように働き掛けると【働き掛け5】

どのような場所で活動するとよいか、考えさせる。

- 発問 「笹団子をもっと広めるために、これからどんな場所で活動するとよいですか」
- 発問 「たくさんの人に伝えるには、どの場所が本当にいいのかな」

このようになり (C5)

- これからの活動を考える。
 - ・僕は県外の人にも伝えていきたいです。県外の人がたくさん集まる場所で、笹団子のことを説明したいです。
 - ・まち探検のときに見付けた古町とか本町とかでやったらいいと思います。田中屋さんが実際に作っているから、そのお店の前で活動すれば、笹団子のことをもっとよく伝えることができるからです。(社会①)
- 場所の妥当性を検討する。
 - ・実際にその場所について、県外や外国の人たちがどのくらいいるのか調べたいです。(社会①)
 - ・田中屋さんみたいに学校のホームページとか facebook とか、インターネットで広めていくのはどうかな。(総合②)
 - ・調べたことを場所ごとに表にまとめて比べれば、どの場所がいいか決められる。(総合③算数①②③)

このように働き掛けると【働き掛け6】

発信対象に対してどんな内容をどのような方法で伝えればよいか問う。

- 発問 「調べてきた結果、どこで活動したいですか」
- 発問 「その人に笹団子のどんなことをどんな方法で伝えたらいいと思いますか」
- ・指示 「していきたいこととその理由をカードに書きましょう」

このようになる (Cn)

- 調査活動の結果をまとめる。
 - ・新潟駅は人がたくさんいたよ。県内の人が多かったけど、県外の人もいたよ。
 - ・お店の前で調べたら、県内の人が多かった。笹団子を買いに来る人も、作り方や材料の集め方については知らない人が多かったよ。
 - ・お店の前で活動すれば、実際に笹団子を作っている様子が見られるし、実物を見ながら説明できるからよく分かってもらえそう。
- 対象に合わせた発信の方法を考える。
 - ・笹団子をお土産で買いに来た県外や外国の人たちは、材料のことや材料の取り方、新潟でなぜ作られるようになったのかについては知らなかったのだから、地図にまとめて、材料のとれる場所を伝えたい。
 - ・お店の前で、田中屋さんに協力してもらいながらやるといい。作り方が見えるから、それを見せながら、作り方の説明をすればいい。
 - ・新潟駅にいた人は、忙しそうなのが多かったから、私たちが知っている内容をパンフレットを配ってさっと説明すればいいと思う。

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力は発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け6を受けて、_____のように、調査活動の結果をもとに発信対象を見だし、取り組むべき課題を明確にしたかを、活動の様子やワークシートの記述から検証する。
- ② 働き掛け3-①を受けて、_____のように、目的をもってアンケート結果を表やグラフに整理しようとするのができたか、_____また、整理した表やグラフを読み取ることで、問題をとらえることができたか、話し合いの様子やワークシートへの記述を基に検証する。
- ③ ワークシートの記述や発言から検証する。